

巻頭  
言

## 歴史の偶然



| 会長 山崎 學

2022年2月24日に始まったロシアのウクライナ侵略作戦は、今までの世間一般の常識を大きく変えることになった。世界平和の監視役であるはずの国連安全保障理事会の常任理事国がまさか侵略戦争を始めるとは恐れ入った。バイデン政権に移行後の2021年後半からロシアは軍事演習を名目にロシアの西側に軍を集結させてバイデンの出方を窺ったが、米国政府が大きな反応を示さなかったのを見て、プーチンは軍事侵攻に踏み切った気がする。1991年8月にソ連から独立したウクライナは、1,240発の核弾頭、176基分の大陸間弾道ミサイルを所有していた。しかし経済危機とハイパーインフレに苦しんでいたウクライナは、米英露のウクライナの領土的統一と国境の不可侵を保証するという口車に乗せられてリスボン議定書に署名させられ、4年間かけて核兵器を放棄した。その他に航続距離1万4,000キロメートルの戦略爆撃機44機、航続距離3,000キロメートルの中距離爆撃機66機もロシアに売却されるかウクライナ国内で解体された。ソ連時代は親ウクライナであった黒海艦隊も解体され、1998年に航空巡洋艦ヴァリヤークは、軍事的転用ではなく水上カジノにするという中国に売却されたが、改造されて中国海軍で東南アジア進出の旗艦空母遼寧として稼働している。

世界的な核軍縮の流れの中で丸裸にされたウクライナはロシアと並んでアフリカ、中近東の穀倉地帯として大きな役割を果たしてきたが、戦争の臭いを嗅ぎつけたハイエナに商品先物を買占められたことで、トウモロコシ、小麦、石油、天然ガスといった生活関連物資の国際取引価格は暴騰し、世界規模で新たな貧困、飢餓問題が起こっている。加えて新型コロナウイルス感染症による生活制限は世界経済を混乱させ、ここでも大量の生活困窮者を生み出している。

戦後米国に押し付けられた憲法九条を錦の御旗に掲げて憲法改正に反対する馬鹿者たちは、モスクワに出かけてプーチンと話し合って戦争を終結させてごらん。覇権主義の北京に出かけて習近平に台湾侵略を話し合いであきらめさせてごらん。冷戦終結後の東の間の平和をもう一度よみがえらせてほしい。米国がアフガニスタンを撤退したときから次の兵器を消費する場所はどこなのかと気にしていたが、大スラブ帝国を目指していたプーチンが読みを誤ったのか、はたまた策略に乗せられたのかウクライナ侵略に踏み切ってしまった。プーチンはEU諸国の多くがロシアに石油、天然ガス、石炭、穀物の多くを依存しており、強制力のある経済制裁には踏み切れないと踏んでいたのかもしれない。米国主導で行われているロシアに対する経済封鎖は、ウクライナにおける悲惨な大量虐殺報道もあいまって世界的な広がりを見せ、戦費で消耗したロシア経済を直撃し、ロシア国債もデフォルト寸前になり、ロシア国内ではプーチン政権に対するクーデター

も取りざたされるようになった。

ノルマン人（ヴァイキング）を始祖とする東スラブ人国家キーウ公国リュリク朝が全盛を極めたのは、ウォロディーミル1世（在位 978～1015年）の治世である。キーウ公国は周辺諸国を併合し、ヨーロッパ最大の版図を誇っていた。988年、相次ぐ將軍の反乱で窮地に陥っていた東ローマ帝国皇帝バシレイオス2世に頼まれたウォロディーミル1世は援軍を送り、その見返りに皇帝の妹アンナと結婚する。この結婚を境にウォロディーミルはギリシャ正教に改宗し、死後の13世紀には奇跡を起こした聖人に認定され、ウクライナに聖ウォロディーミル聖堂が建てられウクライナ正教会のキーウ総主教座になった。一方でモスクワ公家が成立したのは13世紀のことで、モスクワ大公は14世紀、さらにロシア皇帝（ツァーリ）の称号に至っては15世紀になって用いられた。

ウォロディーミルのロシア読みはウラジーミルである。ウラジーミル・レーニン、ウラジーミル・プーチン、そしてウクライナ大統領はウォロディーミル・ゼレンスキー。今回の戦争が本家ウォロディーミルと分家ウラジーミルの戦いになっているのは歴史のいたずらなのか。

#### 〈参考文献〉

佐藤賢一：王の綽名，日本経済新聞，2022年5月14日付